図解 小沢一郎の外交政策

2010年9月1日 Michinobu Maeda

戦後、冷戦中

米国の傘の下で繁栄の分け前を分配すればよかった与野党馴れ合いの政治

中選挙区制と全員一致の国会運営が万年野党を温存する

「自分の意志で」がポイント

憲法の制約

第九条は日本国政府が自分の意志で海外における武力活動を行うことを明瞭に禁止している。

「日本改造計画」p.124

100ドル札の逸話（湾岸戦争）

“これを君にやるから、俺の代わりに戦ってくれ”

「日本改造計画」p.36

「小沢主義」p.156

冷戦後

自立した国家にふさわしい役割を果たす対等なパートナーにならなければならない

日本の難しい位置

周辺諸国

日本には不幸な過去があるから、自衛隊を国連の平和維持活動に提供すれば … 余計な疑念を起こしかねない。

「小沢主義」p.160

小選挙区制と政治主導による意志決定

日米関係

日本の外交にとって最も重要日本の繁栄と安全のためにも必要不可欠

「小沢主義」p.146

国連の指揮下での貢献ならOK!!

国連に部隊を提供する

自衛隊は専守防衛

経済政策も外交と一体のもの

自立した国家の自立した国民を育てる教育を

政治主導！国会における官僚の答弁は禁止！

米国と国連の関係

アメリカを絶対に孤立主義に追い込んではならない … それは日本外交の破綻である。

「日本改造計画」p.130

米国から評価されなかっただけでなく …「米国従属の日本」という印象を植え付けた

「剛腕維新」p.27

相手が米国だろうと国連だろうとダメ

内閣法制局

集団的自衛権は保有するが行使はできない。

小泉内閣

イラクに戦に協力。戦闘には参加しない。

?

国連と米国の関係は流動的。結局のところ、米国の意志の枠内でなければ成立しない政策じゃないかな？

国連決議の無いまま米国がイラク戦を開始

Michinobu Maeda